荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -

市民を愛する　市民に愛される　病院へ

第30号（平成27年4月発行）

地域医療連携だより 小岱

〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
荒尾市民病院　相談支援センター　地域医療連携室
TEL　0968-63-1115（代表）（内線536）
FAX　0968-62-4543
ホームページアドレス　www.hospital.arao.kumamoto.jp/
メールアドレス　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

新任医師の紹介

渡邉　聖樹　（わたなべ　まさき）　神経内科部長

出身大学：熊本大学
卒業年次：平成10年
前　任　地：熊本大学医学部附属病院
所属学会：日本内科学会、日本神経学会、日本脳卒中学会
　　日本脳神経血管内治療学会
抱　　負：新任の渡邉聖樹（まさき）と申します。14年ぶりの当院での勤務となります。脳血管障害を専門としていますが、神経疾患全般に対応した神経内科診療を通じて地域に貢献したいと考えております。よろしくお願いします。

泉　裕一郎　（いずみ　ゆういちろう）　腎臓内科部長

出身大学：熊本大学
卒業年次：平成14年
前　任　地：熊本大学医学部附属病院
所属学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本内分泌学会
　　日本心血管内分泌代謝学会、アメリカ腎臓学会
抱　　負：駆け出しの頃に教え育てていただいた思い出深い当院に10年ぶりに赴任いたしました。再会しました職員の皆様に温かく迎えていただき、ありがたく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

福川　喜之　（ふくがわ　よしゆき）　放射線治療科部長

出身大学：長崎大学
卒業年次：平成17年
前　任　地：熊本大学医学部附属病院
所属学会：日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会
抱　　負：熊本県下で、放射線治療常勤医が在籍する数少ない病院の一つとして、荒尾市民の方々のみならず、広く有明地域の方々のがん治療の一翼として頑張ります。よろしくお願いいたします。

大嶋　俊範　（おおしま　としのり）　神経内科医長
出身大学：熊本大学
卒業年次：平成19年
前　任　地：熊本大学医学部附属病院
所属学会：日本内科学会、日本神経学会、日本脳卒中学会
　　日本パーキンソン病運動障害疾患学会
抱　　負：大嶋俊範と申します。地域の神経内科診療に貢献したく、半年間の熊大病院ICUでの勤務を経て、赴任いたしました。脳血管障害の多さに少し面食らっていますが、何卒よろしくお願いいたします。

田村　諭史　（たむら　としふみ）　整形外科医長
出身大学：愛媛大学
卒業年次：平成21年
前　任　地：熊本市民病院
所属学会：日本整形外科学会、西日本整形災害外科学会
抱　　負：フットワーク軽く頑張っていきたいと思います。

辻橋　みずほ　（つじはし　みずほ）　血液内科医師
出身大学：熊本大学
卒業年次：平成24年
前　任　地：くまもと森都総合病院
所属学会：日本内科学会、日本血液学会
抱　　負：4月より血液内科として勤務しております。約2年前に研修医として3ヶ月間お世話になりました。まだまだ未熟者で皆様にご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯頑張りますのでご指導よろしくお願い致します。

後藤　裕之　（ごとう　ひろゆき）　臨床研修医　（基幹型）
出身大学：熊本大学
卒業年次：平成27年
抱　　負：研修医一年目の後藤です。荒尾市民病院に基幹型プログラムとして2年間勉強させていただくことになりました。ご指導よろしくお願いいたします。

副島　駿太郎　（そえじま　しゅんたろう）　臨床研修医　（基幹型）
出身大学：長崎大学
卒業年次：平成27年
抱　　負：元々地域の方で医療を行いたい、そういう意志はあったので、非常に嬉しく思います。この熱意を冷まさぬよう、2年間荒尾市で勤務いたしますのでよろしくお願いいたします。

医　師　退　職　者

消化器内科部長	丸山　祐二	放射線治療科医長	松山　圭矢
腎臓内科医師	梶原　奈央	臨床研修医	辻本　篤志

お世話になりました　ありがとうございました

新規導入機器の紹介

RI装置Discovery　NM　630について

荒尾市民病院　放射線技術科技師長　堺　峰崇

RI装置が新しくGE社製DiscoveryNM630に更新されました。この装置は新開発の検出器により感度を落とさないまま高分解能の画像が得られるガンマカメラです。この新しい検出器の高い分解能を生かし、短時間収集や放射性医薬品の低投与が可能となり、患者様の肉体的、身体的な負担が軽減されます。特に心臓検査、骨検査では従来の3分の2の時間でも従来と同等以上の画像が提供できます。

主な検査は癌・脳・心臓の三大疾患などで、重要かつ貴重な情報を提供しています。

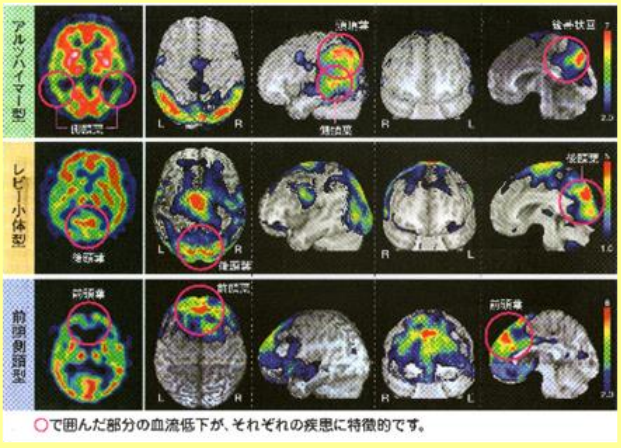
脳の検査においては、従来から行われている脳血流シンチによる認知症検査に加え（写真1）、パーキンソン症候群（PD）及びレビー小体型認知症(DLB)の診断薬DATSCAN（ダットスキャン）も行えるようになりました。この検査は黒質線条体ドパミン神経の脱落状態をDATSCAN定性解析することで、ADとPD・ DLBの鑑別精度の向上が期待されます。（写真2）

また、低髄圧症候群など髄液の漏れを数値化して表現できるようになり、今まで以上に正確な検査ができるようになりました。更に、既存のGE製CTのデータを用いれば体の中で減衰するガンマ線を補正することができ、患部の正確な機能情報を得ることができます。

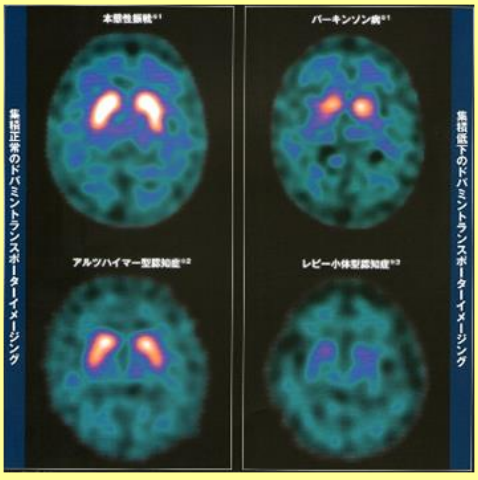
心臓においては、心電同期収集を行い、心臓の動きを含めた機能情報を得ることができ、心臓の収縮の状況を動画で見ることができます。

装置の操作性も向上し、あらかじめプログラミングされている撮影計画を選択することで、統一されたデータ収集と最先端の画像処理解析を行うため、これまで以上により高度な検査が受けられるようになりました。

ご紹介、よろしくお願いいたします。



（写真1）



（写真2）

地域医療連携懇親会のお知らせ

毎年開催しております地域医療連携懇親会を今年も下記の日程で行います。皆様との歓談を楽しみにしております。

記

日　時　：　平成27年5月8日（金）19:00～
場　所　：　ホテルヴェルデ　　有明の間

以上

新入職員紹介

藤川一宇（地域医療連携室　室長）

地域医療連携室室長を拝命しました藤川と申します。

有明医療圏が医療サービスの充実・質の向上、また医療と介護の連携強化において、他の医療圏の模範となるよう、皆様方の御指導をいただきながら、その一助になれるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

嶋田真央（精神保健福祉士）

はじめまして、相談支援センターに新しく配属されました嶋田真央と申します。この春、専門学校を卒業して社会人になりました。

経験も知識もなく、ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、少しでも役に立てるように精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

編　集　後　記

いよいよ新しい年度が始まりました。

この時期は一年を通して一番過ごしやすい時期ではないでしょうか。勉強やスポーツなど何か新しいことを始めるにも良い季節だと思います。

荒尾市民病院にもたくさんの新入職員が入ってきました。相談支援センターも、新しい仲間と共に、荒尾市民病院が地域に根ざした病院となれるよう努力してまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

相談支援センター　渡邉　弘隆

《病院理念》

荒尾市民病院は地域住民の健康の維持増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します。

《基本方針》

1. 地域の信頼に応える基幹病院として、最善の医療を提供します。
2. 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。
3. 患者の人権を尊重し、温かい心を持った医療人を育成します。
4. 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します

《患者様の権利》

・あなたは、あなたの病気について必要な医療を受けることができます。
・あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択することができます。
・あなたは、医療の内容についてご自分の希望を申し出る事ができます。